事後評価報告書（実行団体用）

１．基本情報

１-１）実行団体名：特定非営利活動法人フリースクール木のねっこ

１-２）実行団体事業名：　子どもがつくる次世代型町内会

１-３）資金分配団体名：特定非営利活動法人まちぽっと

１-４）資金分配団体事業名：市民社会強化活動支援事業（Pecs）

１-５）事業の種類：草の根活動支援事業

１-６）実施期間：2020 年５月から 2023 年３月

１-７）事業対象地域：広島県

2.事業概要

２-１事業計画と結果

２-１-１）優先的に解決すべき社会の諸課題

① 領域：1) 子ども及び若者の支援に係る活動、2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動、3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動

② 分野：社会的孤立や差別の解消に向けた支援、安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

③ 直接的対象グループ：NPO 法人フリースクール木のねっこ

④ 間接的対象グループ：フリースクール木のねっこのスタッフ、子ども、保護者、カフェ参加者、フリースクール全国ネットワーク、県内外フリースクール、ゲストハウス三國屋、tansa、一般社団法人ええじゃん、安芸森林ボランティア、Creators Village HIROSHIMA、uncode、ほたる荘（つくれば jr.）

２-１-２）事業の背景・課題

〇社会的課題

平成 28 年「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」が公布され３年が経ち、不登校への理解は広がりつつあるが、自閉症スペクトラムなどの障害、感覚過敏など多様な学び支援が必要な子どもへの合理的配慮や環境整備が整わず、小中学生の不登校数は増加している。

官民連携や法の周知なども実際の対応はバラバラで、未だ社会、教育から孤立する親子が後を絶たない。

〇課題に対する行政等による既存の取組み状況

広島県教育委員会は県内フリースクール等へのアンケート調査を実施し、現時点でのフリースクール活動の実態を明らかにした。更に、２０２３年からの公立高校の入学者選抜を自己表現カード導入や出席数を記載なしにするなど大幅な教育改革を発表した。当フリースクールのこどもが、在籍の公立小学校と遠隔授業に取り組み、話し合いに参加した。

フリースクール出席が、在籍校出席日数に認定されている。

《中長期アウトカム》

広島県内外において、フリースクール木のねっこの子どもたちが、社会、教育から孤立する多様な人々と相互に交流・発信し、次世代型町内会モデルとなり、それぞれの地域と共生協働し、持続可能な地域になる。

２-２本助成事業終了後の事業活動（出口戦略）

３年の本事業を進めた中で、事業年度内に立ち上げた日本語カフェからふる、こちょカフェでの無料ランチ提供などの継続、FMはつかいちやキノネッコラジオ（YouTube）などの、子どもたちを中心とした発信の継続と、そこから派生する団体や個人との連携をしていきます。

子ども町内会で先頭に立ち活動してきたフリースクール代表の生徒二名が来年度から高校生になり、引き続き彼らと共に、子どもの自立を見据えたフリースクール運営、得意を生かした創業などをHATSUNE座で連携支援していきます。

３．事後評価計画・実施概要

３-１事後評価計画

《評価項目・評価小項目》

〇アウトカムの達成度

事業を通して最終的に達成したい目標や中間的なアウトカムは達成されたか。

〇波及効果：

対象とする地域や分野等を超えて、同様の手法による取り組みは波及しそうか。

〇事業の効率性：

事業実施のためのインプットに対して成果の規模や質は妥当であったか。

３-２事後評価実施概要

３-２-１）評価ポイントの設定・実施（どのような変化をこの事業の重要なポイントとして設定し評価を実施したのか）

① カフェ来客人数の維持、継続を目標に設定した。
　主体的に関わる子ども（フリースクールスタッフ生、平日生の活動人数を設定した。

② 外国人交流の日本語カフェの参加人数が増えるような人数設定をした。
　コーディネーター人数は初期から深く関わる人の人数設定をした。

③ 農の活動は、スクール生、地域の方、スクール生の保護者、その後の広がりを考慮し人数設定をした。

④ ICTを利用しフリースクールを中心とした勉強会の発信とイノベーション発表会の回数、参加数の目標を数値設定した。

⑤ 　個別学習オリジナルメソッドの利用人数と実施実態、参加維持の見通しで数値設定した。

３-２-２）実施した調査（どのような調査を実施して測定したのか）

○　調査１

①　調査方法

・アンケート調査(主な項目はカフェ運営について、SNSやラジオ発信について)

②　調査実施時期

・2022 年 12月～2023 年 1月

③　調査対象者

・事業の対象となった 150人のうち，18人を無作為抽出にて選定しアンケートの回答を求めた。回収者数 13人(回収率 72%)であった。

④　分析方法

・カフェとSNS等発信について単純集計(数値分析)、自由記述についてアフターコーディングを行った。

○　調査２

①　調査方法

・インタビュー調査

②　調査実施時期

・2022 年 12月～2023 年 1月

③　調査対象者

・事業の対象となった 150 人のうち，最も特徴的な変化を示した 8人を対象にした。その選定方法として、かかわりの深い、または共同で事業展開した人物を選定した。

④　分析方法

・調査から得られたエピソードをロジックモデルの枠組みで分析した。

３-２-３）調査結果の分析（調査結果をどのように深掘りし価値判断をしたのか）

○　アンケート調査の結果；棒グラフで結果を集計する（別紙）：カフェに一度でも来た方を中心にアンケートを実施し、皆、選択問題では似たような回答であったが、おおむねカフェやSNS発信に対して良好な感想でした。自由記述で率直な意見をいただくことができました。遠方であることがカフェ来店のネックになっていることが分析されます。フリースクールの教育面とカフェ運営の両面、また無料ランチとカフェとの区別が求められていると分析しました。ＳNS発信は時代に合わせ、現状も継続しつつ新しいい方法も取り入れていく必要があると考えました。

○　カフェ常連の方、カフェに関わる子どもたちにインタビューした結果；フリースクールの中にあるカフェということが、重要視されており、スタッフの人材と環境が気に入られてカフェへリピートしていること、そこにいる子どもたちも良好な印象で関わっているとわかりました。

○　ええじゃん代表の栗林克行氏にインタビューした結果：2021 年のお互いの活動紹介という勉強会から、在住外国人支援を主とする「ええじゃん」と学校外の学び場「フリースクール木のねっこ」との交流が始まりました。フリースクールという子どもの自

治社会で過ごす子どもと、異文化ルーツの外国人や精神障がいのある方々との互いの居場所の行き来を通して、お互いに、多様性を認め合う嬉しさと難しさの両面をしることができたように思います。御年 80 歳を迎えられた栗林代表が時代の移り変わりと、変わらない行政の体制を自分事とし、変化を仕掛けようと動き出している様子はまさに多様性をもつ先駆者として大いに影響力をもつと感じました。

3-3実施体制（内部/外部、評価担当役割、氏名、団体・役職）

《計画時》

フリースクール木のねっこのスタッフ、子ども、保護者

カフェ参加者、フリースクール全国ネットワーク、県内外フリースクール、安芸森林ボランティア、Creators Village HIROSHIMA、uncode

《事後評価実施時》

フリースクール木のねっこのスタッフ、子ども、保護者、カフェ参加者、フリースクール全国ネットワーク、県内外フリースクール、ゲストハウス三國屋、tansa、一般社団法人ええじゃん、あいあいねっと、安芸森林ボランティア、Creators Village HIROSHIMA、uncode、ほたる荘（つくれば jr.）

4．事業の実績

4-1インプットの計画と実績

4-1-1）資金

① 事業費（自己資金含む）6,546,920 円

＊内訳〔直接事業費〕5,105,520 円/〔管理的経費〕1,441,400 円

② 評価関連経費（計画時）294,000 円/（実績額）263,434 円（ご記入時点での額でご記入ください）

③ コロナ対策緊急支援追加額 846,000 円

④ 助成額（計画時合計額）7,140,000 円

⑤ 助成額（実績合計額）7,109,434 円（ご記入時点での額でご記入ください）

⑥ 自己資金の種類と金額（計画時額）

・種類：団体収益事業費

＝2020 年度：20,794 円/2021 年度 32,400 円/2022 年度 402,400 円

・種類：会費寄付金＝2020 年度：0円/2021 年度0円/2022 年度 100,000 円

⑦ 自己資金の種類と金額（実績額）

・種類：団体収益事業費＝2020 年度：22,086 円/2021 年度 32,400 円/2022 年度 400,560 円

・種類： 会費 ＝2020 年度： 0円/2021 年度 0円/2022 年度 40,000 円

⑧ 自己資金の調達で工夫した点など（自由記述）：

助成期間中にフリースクール生が増え、保護者が会員になってくれたこと、コロナ禍で不登校相談が増え、生徒が自然に増えたことが資金調達の点で有利となりました。ふぇす。の定期イベントを年四回開催し、発信事業により集客を増やし、売り上げをあげることを

工夫しました。

4-1-2）人材

① 計画時：

内部：合計８人（常勤スタッフ２人、非常勤ボランティア６人（うち経理担当者１人））

外部：合計 40 人（NPO 法人フリースクール全国ネットワーク、県内外フリースクール、一般社団法人大地の再生結の杜づくり、廿日市市民活動センター、広島修道大学国際コミュニティ学部、愛の家グループホーム廿日市地御前、トーンチャイムファミリー、一般社団法人ええじゃん、一般社団法人スイス村、宮島ゲストハウス三國屋）

② 実　績：

内部：合計８人（常勤スタッフ２人、非常勤ボランティア６人（うち経理担当者１人））

外部：合計 40 人（NPO 法人フリースクール全国ネットワーク、県内外フリースクール、ゲストハウス三國屋、tansa、一般社団法人ええじゃん、あいあいねっと、安芸森林ボランティア、Creators Village HIROSHIMA、uncode、ほたる荘（つくれば jr.）

4-1-3）資機材（事業で購入した高額の資機材の主要なものを記載してください）

① 計画時：プロジェクター、ロールスクリーン、タブレット、ネット通信用機材、大型テレビ、ノートパソコン、自立型 Wi-Fi

② 実　績：　iPad、ノートパソコン、大型テレビ、自立型 Wi-Fi、ラジオ録音音響設備、チェーンソー、電動のこぎり、野外スピーカー

4-2 活動とアウトプットの計画と実績

4-2-1）主な活動の計画と実績

《アウトプット（計画時：概要、指標、初期値/初期状態、目標値／目標状態、目標達成時期、実績値）》

(3) アウトプット	指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期	実績値
①1－1フリースクール生による暖炉のあるカフェ運営、昔暮らし体験、宿泊を月２回継続的にできるようになる。	カフェ、昔暮らし体験、宿泊参加者数 関わるフリースクール生の人数	０名	カフェ参加者数：延べ１５００名 昔暮らし体験宿泊参加者数：延べ 50 名 関わるフリースクール生の人数：５名	2022 年 9 月	カフェ参加者数；延べ；331 名 昔暮らし体験宿泊参加者数；40 名 関わるフリースクール生の人数；10 名

②１－２外国人移住者との語学・文化交流し、多文化共生をコーディネートする人材が生まれる。	外国人交流参加者数 多文化共生コーディネーター人数	０名	外国人交流参加者数：延べ100名 多文化共生コーディネーター人数：３名	2022年4月	外国人交流参加者数；延べ801名 多文化共生コーディネーター；５名（内フリースクール生３名）
③１－３　森林、畑、田んぼで過ごす作業療法的発達支援が毎月１回継続できるようになる。	作業療法的発達支援参加者数	０名	作業療法的発達支援参加者数：延べ50名	2022年9月	作業療法的発達支援参加者数：延べ464名（農）
④１－１　２－１　ICTの利用による、フリースクール、コミュニティー、家庭学習者との交流、共同研究、起業提案発信ができるようになる。	ICTの利用による、フリースクール、コミュニティー、家庭学習者との交流参加者数 共同研究、起業提案発信チーム数	初期値：０名、０回	ICTの利用による、フリースクール、コミュニティー、家庭学習者との交流参加者数：延べ1000名 共同研究、起業提案発信チーム数：１０回	2022年4月	毎週１回インスタライブによる交流。延べ372名
⑤２－２　個別学習オリジナルメソッド（LDや自閉症スペクトラムなど広義において有効）とオンライン学習教材の実践研究	実践数 システム利用人数 研究会議回数	初期値：０	実践数：３ システム利用人数：10名 研究会議回数：５	2022年9月	実績数：27 システム利用人数：４名名（計10名） 高校受験に向けた学習支援（中３生１名） 研究会議回数：14

《主な活動》

① マイノリティカフェ「こちょカフェ」は、孤食、貧困、外国ルーツ、引きこもり、不登校、障害、、どなたでも無料ランチを月１回提供しました。フリースクールの生徒が食事作りやカフェ運営に関わりました。お客さんも配膳や下膳、食器の片付けなど、普段のフリースクール活動を体験してもらいました。

② 「日本語カフェからふる」は、横川カフェ月２回に加え、西広島月２回カフェをオー

プンしました。広島に住む外国ルーツの方が一緒に日本語で話をしたり、勉強をする場所です。フリースクールスタッフと子どもが多文化共生コーディネーターとして関わりました。

③ 週1回農コーディネーターの方に指導いただき、主に子どもたちが畑、田んぼでの農作業を行い、また自作の公園での遊び体験を通して作業療法的に心身のバランスを整えることを行いました。

④ 企業とのプロボノマッチング会に参加し、つながりのできたPwCの方々にフリースクール経理の業務の効率化をサポートしていただきました。また、PwCの方を講師にお招きして会計について子どもたちに特別授業を開催、その後フリースクール活動体験をしていただき交流をしました。

⑤ 同じく本助成事業の実行団体である「Tansa」の方々とのつながりにより、合同でオリジナルメソッド「スクープを放つ！」講習を3回開催しました。5名のフリースクール生が参加しました。

《主な活動における実績》

① 「こちょカフェ」では、フードロス活動団体あいあいねっととの連携によって食材を提供して、マイノリティの方の交流や困窮者を対象とした無料ランチの提供が定期的に開催できるようになりました。また、参加者同士の交流や放課後等デイサービスなどの施設からの見学交流を実施することができました。従来の食堂のようなご飯を食べる場所に留まらず、フリースクールの子どもたちが考え作る料理を味わい、食器の片付けなど参加者の方もフリースクールの疑似体験できる場となりました。

② 「日本語カフェからふる」では、在住外国人との交流を通して、参加した多文化共生コーディネーターのメンバーが多様性をより深く知ることができました。定期的に参加することにより人間的なつながりもでき、人間対人間のかかわりからフリースクールに手伝いに来てくれたり、個人としてのつながりも生まれました。

③ 週1回の農コーディネーターによる指導で子どもたちは鍬などの農機具を使って畑の畝立てをしたり、鎌を使って草刈りや田んぼの稲刈り、足踏み脱穀機での脱穀など、全身運動が苦手な子どもも経験を重ねることで、体の使い方を覚えていきました。

④ どきどきるんるんパークという公園は、なるべく活動場所にある材料でうんてい、ブランコ、平均台などを創意工夫して作りました。作ったり利用して遊ぶこと自体が、定型遊具とは異なり体幹を鍛えることができました。放棄農作地を整備せずそのままの状態でボール遊びやおにごっこのできる広場として使っており、子どもたちの身体面では、より体幹を鍛え全身の柔軟性も得ることができました。

⑤ PwCの方のサポートにより、経理業務の見直し改善が行われ、業務の時間が短縮され、さらに精神的不安も軽減されました。一人のスタッフが抱えていた経理の仕事を、子どもたちに引き継ぐことができました。今後もフォローしていきます。子どもたちはイベントでの出店で会計についてより深く理解し、利益計算など取り組むことができました。

⑥ Tansaとのオリジナルメソッドとしての「スクープを放つ！」講習は2021年から2022年度にかけて3回実施し、合計5名の子どもが参加しました。報道というだけでなく、興味のあることを自分で探査し誰かに伝えるということは、集団教育の中で

の個別学習アクティブラーニングにつながりました。またマイノリティであるフリースクールの子どもたちがそれを発信していくことにより、自分自身の表現活動にもつながり、生みの苦しみがある反面、成功体験となりました。

4－3外部との連携・協力などの実績

○ PwCとの企業連携

スタッフに経理の得意な者がいないため、常に手探り状態で、経理に関し漠然とした不安を抱えていました。また、スタッフ一人一人が多岐にわたる業務を抱えているため、経理事務の効率化を望んでいました。

PwCのお二人に具体的な経理の効率化についてご指導いただき、改善していきました。その結果、できていない点が明確化され、間違いが減りました。経理のプロである公認会計士の方々に確認してもらうことで自信が持てました。また、一人で負っていた責任が減り、業務に対する不安が減りました。経理事務が効率化され、役割分担ができました。

こども達もイベントの屋台販売の利益計算など、身近に経理を取り入れることができました。

企業連携を行う上で工夫したことは、企業の方にフリースクール自体に興味関心をもって下さった上で支援をしていただけるのかどうかを確認しました。子どもたちとの関りを優先として日常の業務の導線などを理解頂けた上での提案をして欲しかったためです。

また、問題点が具体的にならなくても、分からないなりの言葉にして伝え、経理面で現実的にみて自立できるように、現時点でできること、できないことを伝えました。

4－4成果の分析（アウトカムの達成度と分析）

4－4－1）短期アウトカムの計画（計画時：概要、指標、初期値/初期状態、目標値／目標状態、目標達成時期）》

（2）短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
1．廿日市市において木のねっこカフェ開店により、フリースクール木のねっこが、多様な人の集まる場として交流や社会体験ができるようになる。	参加人数 個人支援カード数	初期値：0	参加人数：２０名/日 個人支援カード数：１００名分	2023年03月
2．広島県においてネット通信環境整備により、フリースクール木のねっこが、遠隔での交流、生きる学びのコミュニティ拠点として、協働できるようになる。	参加人数 開催回数	初期値：0	参加人数：延べ１０００名 週１回開催	2023年03月

４-４-２）短期アウトカムの達成度（実績：概要、実績値、要因、課題など）

① 廿日市市において木のねっこカフェ開店により、フリースクール木のねっこが、多様な人の集まる場として交流や社会体験ができるようになる。

・ 実績値；16名／日　　個人支援カード　70名分
・ 要因；コロナ禍であり、当初の集客数を望めなかった。
・ 課題；細く長く継続していく。

② 広島県においてネット通信環境整備により、フリースクール木のねっこが、遠隔での交流、生きる学びのコミュニティ拠点として、協働できるようになる。

・ 実績値；延べ357名　週１回開催
・ 要因；活動の中心となるフリースクールの子どもたちは、オンラインのみの交流は求めない傾向にあることが分かった。
・ 課題；オンラインはあくまでツールという使用範囲にする。

4-4-3）アウトカム達成度についての評価（複数の短期アウトカムの達成度を総合的に見て（中長期アウトカム・今後の活動に向けた展望など含む））

・ コロナ禍においてカフェ運営は達成度が５割程度で、できない部分もありましたが、フリースクールのカフェ運営、ネット通信を使った連携や協働によりつながった団体や個人の中で、子どもも大人も学びあえる居場所づくりへの協力者がどんどん増えました。
・ 子どもたちによる今後のフリースクール運営の中で、子どもの自立への活動は地域という共同体が主たる一端を担い、持続可能なものとなるという展望を持っています。

4-4-4）波及効果（想定外、波及的・副次的効果など）

・ Tansaとの合同プロジェクト「スクープを放つ！」講座からTansaユース合宿へと波及しました。
・ ステートストリート銀行の方により、フリースクール木のねっこホームページ「子ども町内会」ページの多言語翻訳をしていただきました。

４-４-5）効率性の向上

・ JANPIAの方から紹介いただき、プロボノマッチング会に参加しました。
・ つながった企業PwCの方との経理事業改善の取り組みを行いました。
・ 経理の体制を一人から二人に増やし、経理の作業工程を簡略化したり整備していただくことで、経理にかける時間を短縮できました。また、支援を受けなかったときに比べ、精神的負担感も軽減したと想定されます。

５．成功要因・課題

・ 成功要因は、ホームであるフリースクール併設のマイノリティカフェ「こちょカフェ」では、社会課題を持つ当事者であるフリースクールの子どもが、ほかの当事者の方に

料理を作ったりもてなす体験ができました。アウトリーチとしては、「日本語カフェからふる」で在住外国人メンバーと定期的に日本語や互いの文化を学んだりする中で、多様な団体や個人とつながり、また、そのつながりから連携や協働の機会がうまれたことです。そして、そのような活動を自らの口で語る定期的な発信の場があったことで、関わる人みんなに有用感が感じられたことだと思います。

・ 課題；ネット通信において、環境設備のみによる協働や交流を行ったが、あくまでもリアルとオンラインの併用の方が生きる交流となり、中心的活動をするフリースクールの子どもたちの印象に残るようでした。ICT のみ、ネットのみの交流や協働はこの事業の中心であるフリースクールの子どもたちにとっては困難であったように思います。

６．「つながり」の強化

○ 「つながり」の強化１

・ uncode；学習アプリ制作の相談をされました。

・ つくれば工房 junior；zoom で理科や算数の教室を見させてもらいました。

・ 安芸森林ボランティア；牡蠣の養殖用の竹パイプ作りの相談をされました。

○ 「つながり」の強化３

・ 広島平和文化センター国際市民交流課；外国人の方からの相談の対応を依頼されました。

・ あいあいねっと；フードバンク活動で、フードロスの食材を毎月１回いただいています。

○ 「つながり」の強化４

・ PwC；プロボノマッチングによりつながり、フリースクールの経理を整備改善サポートいただきました。フリースクールのこどもたちへも会計の勉強会をしていただきました。

・ カフェのお客さん；常連のお客さんは、フリースクールの行事に参加していただいたり、フリースクールの活動を手伝ったりしていただいています。

○ 「つながり」の強化５

・ Tansa；3 回開催の合同プロジェクト「スクープを放つ！」講座でオリジナルメソッドによりフリースクールの子どもが探査報道について学び、自分の探査した記事を発表しました。

・ 一般社団法人ええじゃん；合同勉強会の開催、月１回 FM はつかいちで一緒にラジオ番組を放送しています。

・ 日本語カフェからふる；毎週火曜日２か所の拠点で開催されている外国人の方などが集う日本語カフェの多文化共生コーディネーターとして、フリースクールのスタッフと子どもたちが参加しました。

・ ゲストハウス三國屋；勉強会や発表会、合宿の開催場所として提供いただくだけでなく、月１回のお仕事体験の場所として提供いただき、ゲストハウスの掃除や片付けなどをフリースクールの子どもたちと行っています。

７．結論

７－１事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

・（１）、（２）それぞれ１箇所を選択し、○をご記入ください。

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
（１）事業実施プロセス					○
（２）事業成果の達成度					○

７－２事業実施の妥当性

・　特に活動場所である廿日市市における外国人支援団体ええじゃんと早期につながることができたことは、この事業においての一番の収穫です。ええじゃんの定例会や活動に参加することにより、マイノリティ当事者のニーズや団体としてのニーズに実際に寄り添い、協働とは何たるかを学ぶことができました。

・　長期在住者の中にも引きこもりや不登校児は例外なく存在し、相談しにくい事例にも出会うことができました。全国的に増加する不登校児童に対する対策として、2022 年から廿日市市教育委員会は民間団体とのネットワーク会議の年２回の開催と、はつかいち居場所ほっとネットワークパンフレットを作成して、校長会や SSW 等への配布をしています。廿日市市にはまだ紹介できる施設が数か所しかなく、木のねっこも支援先として、会議の出席と、パンフレット掲載は２年目になりました。それにより、相談件数がさらにふえ、入学目的だけでなく、地域の居場所としてその子どもに合った場所を提案することができるようになりました。県教委も教育支援センターを使った先駆的な SCHOOL“S”事業や、公立高校受験での面接に「自己表現」を必須にして、出席日数を不問にする取り組みをはじめるなど、不登校の中の学校復帰を望む子どもには選択肢が広がることにもなりました。また、乳幼児から未就学児の年齢で既に、公教育への不信や子どもの特性に悩む親子も多い中、フリースクールの週末体験「ねっこっこ」や「カフェ」事業は、気軽な相談やつながりの場所になっていると思います。

８．提言

・　探査報道に特化した子ども向けのオリジナルメソッドづくりを Tansa と共に継続し、フリースクールでの定期的な開催をしていきます。

・　子どもパシリテーター（お手伝い業）、就業や得意を生かした創業事業の継続をします。

・　子ども町内会を HATSUNE 座に移行し、子どもの長期的な自立に向けた伴奏支援共同体をつくります。

・　外国人相談窓口をつくります。

- こちょカフェは、さらに放課後カフェ事業も行います。
- 子どもの「社会」としての公的機関の学校と、安心安全な「家」との、狭間や、また別の居場所、学び場としての「フリースクール」では、今までの記憶型の IQ ではなく、人間力 HQ が育つということでは、コミュニケーションや記憶型スタイルが苦手な子ども、過敏な子どもにとっては、野外学習や社会見学、校外学習的な主体的で活発な学びとしての価値と、管理されない居場所という両面の価値のある場所となっています。廿日市教育委員会とは子どもの学校外の居場所として連携をしています。また、同時に、親や関わる大人の学び場としても大事な「居場所」となります。今後「親の学び場」としての要素も、つながりつくりとしても、ホーム、アウトリーチの両面で必要になってくると思います。

９．知見・教訓

- 当初のオンライン事業化とコロナの影響が重なり、一時は zoom などの交流なども試しましたが、継続するに従い、フリースクールの小中学生にすればツールでしかなく、体験し暮らしを丁寧に重ねることの重要性がわかりました。
- 行政の対応は縦割りであることは変わりないですが、こちらからのアプローチで窓口を紹介してくれることはあるように、多文化共生を地域協働として関わる時、フリースクールの不登校に関する知見が活かされたり、子どもたちのオンライン発信活動が、高齢者や外国人支援に生かされたりするという連鎖がはじまります。それぞれの経験や知見をいかすためにはそれ以外の支援団体や個人と組合のようにつながり相乗効果をあげることが大切だと思います。
- 子どもたちは、不登校界隈だけでなく、多様な社会課題に向き合う団体と出会うことにより、探査する価値とそれを伝える経験をしました。その一連の作業は彼らに自信と冒険心を植え付けたようにみえます。実際、現実的だった彼らは将来あれがしたい、このようになりたいと話すようになりました。しっかり時間をかけて現実と自由と向き合い、成長したのだと思います。

10．資料（別添）

- PwC 記事

https://www.pwc.com/jp/ja/about-us/corporate-responsibility/our-stories/janpia2.html

- キノネッコラジオ YouTube

https://youtube.com/@user-ne3nt3pd8u

- 広島版ひきこもり支援情報ポータルサイト

https://harumoni-hiroshima.com/

一般社団法人ええじゃん　代表　栗林氏　インタビュー

ＳNS 発信（ラジオ発信）についての回答

少子化の時代のせいか、子どもたちが繊細になり、管理社会によって大人が、人間同士のつながりが薄いのにまわりを気にするようになり、それが子どもに影響している。
遊びに自由がないなかで、みんな持って生まれた能力を使いきれないでいる。そんななか、フリースクールの子どもたちと出会って一緒に話したり、活動したりするのはとても楽しいし、学びになるので、マイノリティがあつまって地域から社会を変えるんだというシンポジウムを開きたいと思うに至った。ICT を使ったつながりや、地域の希薄な人間関係の基礎作り（防災へもつながる）に各人がとりくみ、学校制度の立て直しもそれに包括的に含まれると思う。

田植え

畑作業

PwC 勉強会

キノネッコラジオ録音

こちょカフェランチ　　ごりおカフェランチ

ランチづくり

ねっこっこ（就学前の子ども対象）

異文化交流

井戸掘りワークショップ

公園づくり　　森遊び

ゲストハウス三國屋お仕事体験

多文化共生からふる展

日本語カフェからふるクラファン　　木のねっこふぇす。

アンケート回答

Ａさん
１
①４②１③１④１⑤いつも季節の野菜を使った料理をありがとうございます。食べたことのなかった、知らなかった野菜もあり、いつも美味しくいただいています。
２
①４②２③１④２⑤いつも楽しんで発信していてこちらも楽しくなります。

Ｂさん
1
①4②1③1④1
⑤子どもたちがご飯を作ってくれてると聞きとても驚きました！
ヤギもいて
自然もあって
とても美味しいご飯をありがとうございます😊
2.
①4②1③1④1
⑤ラジオはちょっと古いなぁと感じます
まぁ楽しいからいいですけど、
宣伝としてTikTokとかインスタ(インスタライブじゃないものリールとか投稿)も増やしていきたいですねぇ〜

Ｃさん
1.①4　②1　③1　④1　⑤料理がおいしかったです
2①4　②1　③1　④1　⑤インスタライブが楽しかったです

Ｄさん
カフェ
①4②2③2④2⑤貴重な時間を過ごさせてもらってます。
sns ラジオ
①　4②2③1④1⑤毎回楽しみです。

E さん
1
①4②2③2④2
⑤
・毎回、色々と工夫しながら提
供していて子ども達が主体となるきっかけになっていると思う
・良い意味で固定客が多くリピーターとして参加されている印象がある
・趣旨にある社会体験の場としては運営、接客等、学びの機会になっていると思う
・ごりおカフェとの差があまり分からなかった感じがありました
・休眠預金事業として充てられたカフェ費用が何に使用されたのかは知ってみたかった
例）器やキッチン周りの整備費用等に使用した etc
2
①4②2③1④2⑤
・Instagram ライブ発信については仕事都合上なかなか聞く機会はなく残念ですが受信側で
どのくらいの人達が聴きにきているのかは知ってみたい
・子ども達が今どんな活動をしているのかを発信する場としては良い成果だと思う

F さん
1
①4②1③1④1
⑤教育の一環としてのカフェ運営という観点ならば、とても良いと思う。
接客のマナーは、まだ伸びしろがあるかと思います。
2
①4②1③1④1
⑤子ども達の発信が、自然体で日常の様子そのままが見れて面白い。
ラジオ配信は、はるみさんのツッコミから、いろいろ引き出せて、そのやりとりが面白い。

G さん
1.
① 4.②1.③1.④1.
⑤ごりおカフェ、こちょカフェについて感想など自由にお答えください。
子どもたちが作るごはんがおいしいし　癒されます
２,
①1.②③ 2④2
⑤聞いてみて答えたいです

Hさん
１.こちょカフェ、ごりおカフェ
①４②１③１④１
⑤雰囲気や空間としてはとても良いと思うですが、地理的に車を持っていない人を呼びにくいです。

２.ラジオ
①４②２③１④１
⑤世間からするとかわいそうな感じがする不登校がラジオを通して見方が変わるといいなと思います。

Iさん
1①４②1③2④1⑤こちょかふぇの食事はセルフなところが自分で調節できるからありがたい。
2①4②1③1④2⑤子供たちが元気なところがよいとおもいます。

Ｊさん
１,
①4②2③2④2
⑤
でも、行き方とかのせつめいを、うまくできそうになくて、実際にすすめるのがじぶんには、難しそうです🙇
ふぇす。のときの、ごりおカフェで、もし、
すごく緊張して内気な気持ちの人や、そんな気持ちの時には、
意思を伝えたりうまく動ける人と比べて、へこんでしまったり、とりのこされた、気持ちになったり、しないかなぁという、気もしました。
でも、きっと、周りの人が、気持ちをわかってくれて、気づいて声をかけたり、見守ってくれるような、気もしました。
家からとおいので、なかなか行けないかも
テイクアウトに、とても丁寧に、していただけたり、量を調整していただけたことが、ありがたかったです。
食べやすい場所に、声をかけていただけて、いっしょに食べれたのも、ほっとして、うれしかったです。
体にいい、元気のでるごはんを、ありがとうございます。

２,
①4②2③2④1
⑤
自分を表現できたり、考えをしっかり言えて、大人も子どもも対等な感じのところも、素敵だなぁと思います。
たくさんげんきを、ありがとうございます。

K さん
1
①4②2③2④2
⑤野菜しか食べられないから少し物足りないです。スイーツは美味いです。
2
①2②4③1④2
⑤SNS の発信はいろんな人に知ってもらえるからいいと思う。ラジオも木のねっこの宣伝になるからいいと思う。

L さん
1
① 4②1③1④1
⑤無回答
2
①4②1③1④1
⑤無回答

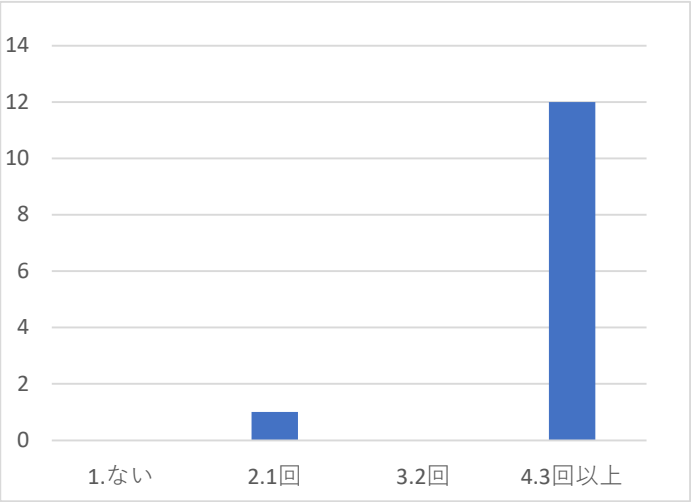
M さん
１,
①3.2 ②2. ③1. ④2.
⑤アメリカ人のグレースさんが訪れたり、色んな人の交流場となり、すごく素敵なことだと思います。
２,
①2. ②2. ③1. ④1.
⑤子供たちが自分で主体的に考えて、番組を作るのはとても素敵なことだと思います。

アンケート集計

1

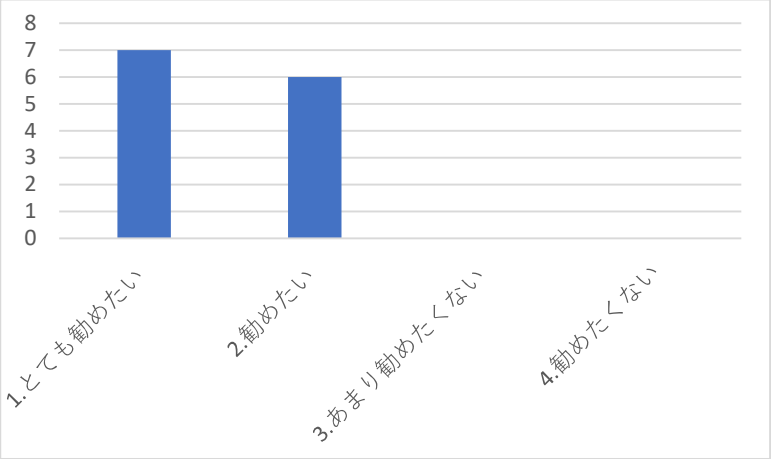
①「ごりおカフェ」、「こちょカフェ」に参加したことがある。

1.ない	0
2.1回	1
3.2回	0
4.3回以上	12



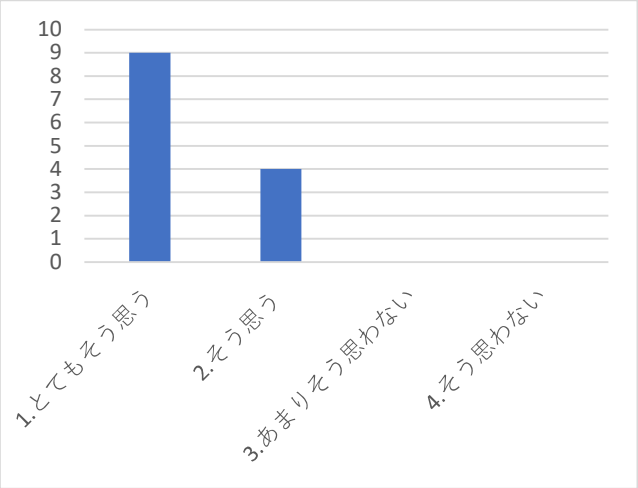
②参加してみて、友人に勧めたいと思いましたか？

1.とても勧めたい	7
2.勧めたい	6
3.あまり勧めたくない	0
4.勧めたくない	0



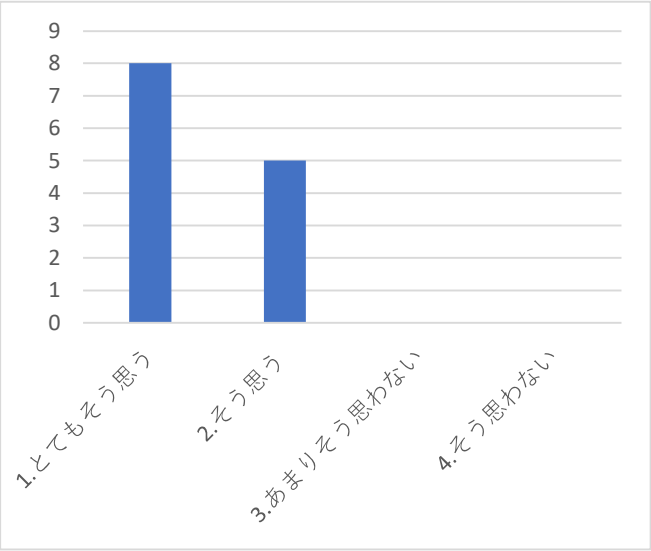
③多様な学びの必要な子どもや、社会で生きづらい人にとって、このカフェは居やすい場所と思いますか？

1.とてもそう思う	9
2.そう思う	4
3.あまりそう思わない	0
4.そう思わない	0



④ごりおカフェにまた行きたいですか？

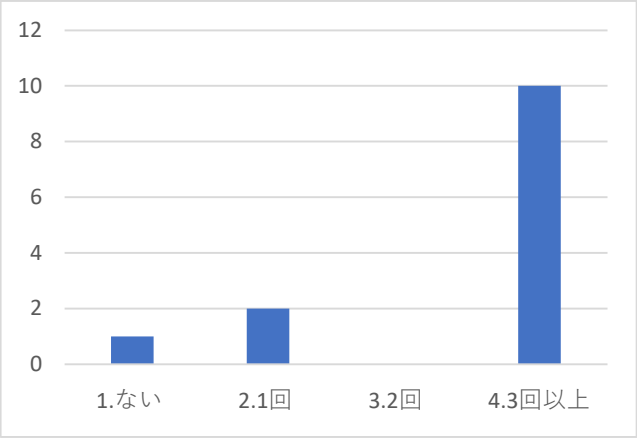
1.とてもそう思う	8
2.そう思う	5
3.あまりそう思わない	0
4.そう思わない	0



2

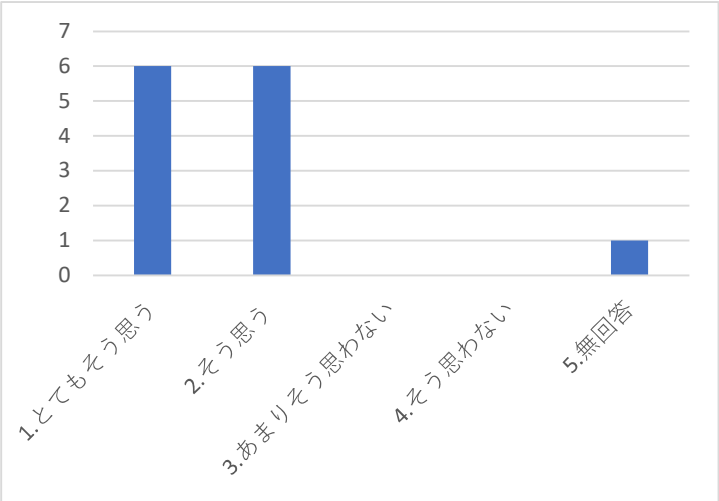
①毎月第2火曜日16：00からの「FMはつかいち・からふるタウン廿日市」の放送をラジオまたはYouTubeで聴いたことがありますか？

1.ない	1
2.1回	2
3.2回	0
4.3回以上	10



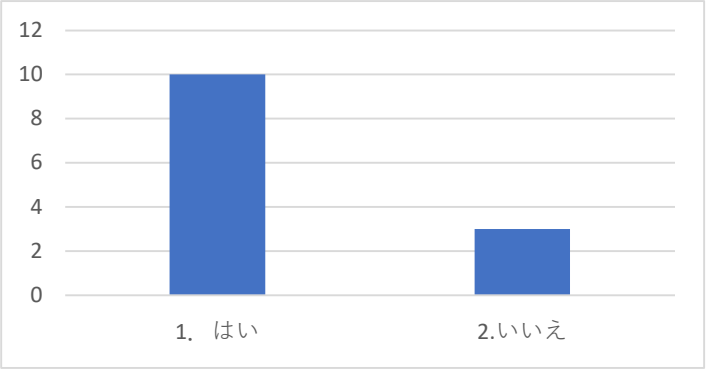
②ラジオを聞いた方はまた聴きたいと思いましたか？

1.とてもそう思う	6
2.そう思う	6
3.あまりそう思わない	0
4.そう思わない	0
5.無回答	1



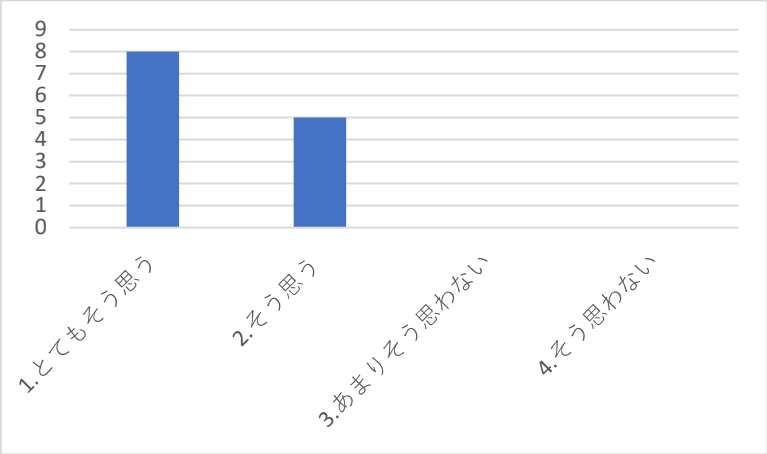
③FacebookやInstagramなどのSNSで子ども町内会が発信しているのを知っていますか？

1.　はい	10
2.いいえ	3



④SNS発信やInstagramライブは発信側、受信側にとって意義のあることだと思いますか？

1.とてもそう思う	8
2.そう思う	5
3.あまりそう思わない	0
4.そう思わない	0



「こちょカフェ」インタビュー　子ども編

Q、「こちょカフェ」をやってどうでしたか？

人と触れあえてよかった

ごはんが美味しかった

添加物などが入ってない食事がいいと思う

お客さんや子ども同士の会話が増えて団結力が高まった

野菜をたくさん切ったけど、つらくなかった

いろんな人が来て、その人たちと一緒に食べたりおしゃべりできて楽しい。

みんなでおしゃべりしながら作るのも楽しい

スイーツが美味しくて、料理をするのも楽しかった

いつもは作らないメニューを作ったり、普段のフリースクールとは違うことをするのが楽しい

＊子ども町内会事業 アンケートのおねがい＊

休眠預金等活用事業として 2020 年から 3 年間いろんなことに挑戦してきました。
この度 2022 年度事業終了にむけて、関わりの深い皆様へアンケート調査のご協力をお願いしています。
お忙しいところ恐縮ですが、よろしくお願いします。(1/11 までにご返答頂けますと幸いです)

１，まずは、その１つの活動として、
「ごりおカフェ」、無料ランチ提供の「こちょカフェ」を運営しました。
月１回ごりおカフェ、こちょカフェ、年４回のふぇす。でのごりおカフェを
いろんな人が集まりやすい場、交流や社会体験のできる場となるように継続してきました。

以下の質問にお答えください。

①「ごりおカフェ」、「こちょカフェ」に参加したことがある。
1.ない　2.1 回　3.2 回　4.3 回以上

②参加してみて、友人に勧めたいと思いましたか？
1.とても勧めたい 2.勧めたい 3.あまり勧めたくない 4.勧めたくない

③多様な学びの必要な子どもや、社会で生きづらい人にとって、このカフェは居やすい場所と思いますか？
1.とてもそう思う 2.そう思う 3.あまりそう思わない 4.そう思わない

④ごりおカフェにまた行きたいですか？
1.とてもそう思う 2.そう思う 3.あまりそう思わない 4.そう思わない

⑤ごりおカフェ、こちょカフェについて感想など自由にお答えください。

２，さて、次は、子ども町内会の SNS やラジオ発信についてご質問です。
次世代型の町内会づくりの１つの活動としてインターネット通信環境を整備し、
オンラインや、SNS、FM ラジオ放送などをして遠隔での交流や、
協働、発信などで活動を広げて参りました。

以下の質問に引き続きお答えください。

①毎月第 2 火曜日 16：00 からの「FM はつかいち・からふるタウン廿日市」の放送を
ラジオまたは YouTube で聴いたことがありますか？
1.ない　2.1 回　 3.2 回　 4.3 回以上

②ラジオを聞いた方はまた聴きたいと思いましたか？
1.とてもそう思う 2.そう思う 3.あまりそう思わない 4.そう思わない

③Facebook や Instagram などの SNS で子ども町内会が発信しているのを知っていますか？
1.はい 2.いいえ

④SNS 発信や Instagram ライブは発信側､受信側にとって意義のあることだと思いますか？
1.とてもそう思う 2.そう思う 3.あまりそう思わない 4.そう思わない

⑤子ども町内会の SNS やラジオ発信についてご自由に感想などお答えください。

以上です。
アンケートは、子ども町内会事業の事後評価報告の参考にさせていただきます。
御協力ありがとうございました。

子ども町内会 運営部

「こちょカフェ」インタビュー

こちょカフェ常連、廿日市市在住の女性（50 代）
Q,こちょカフェをどうやって知りましたか？
　フリースクール木のねっこの代表とは、別の機会に知り合っていて、フリースクールに興味があったので Facebook 木のねっこページをフォローをして、こちょカフェの情報を知りました。

Q、こちょカフェの意義は何だと思いますか？
マイノリティ当事者として、地域の中の居場所、フリースクールの大人と子どもの距離感が心地よいです。以前、DV 被害で 3 カ月滞在していた場所はいろんな大人が、いろんな子どもを一緒に育てていて、そこの雰囲気にも似ていて惹かれました。
周りの人がマイノリティの人を理解しようとして、地域の人が受け入れてくれる場所はとても貴重だと思います。
また、野菜たっぷりの食事はとてもおいしく、食べた後元気になり体が軽くなります。
ご飯を食べる場所はフリースクールに興味がある人にとって行きやすく、
フリースクールという場所があるという実感が持てます。直に来てみて感じられます。自分の好きなようにできるスペースは貴重で、寂しいコロナ禍ではありがたい場所でした。
ここは学校以外の場なのでいろんな体験ができ、自分の固定概念がいい意味ではずれ、視野が広くなります。

Q、これから「こちょカフェ」に期待することは何ですか？
内容は今のままで十分なので、「こちょカフェ」をもっと知ってほしいと思っています。フリースクールも公的支援がないと知りませんでした。月謝やスクールの送迎など、フリースクール入学にはハードルがありますが、このような場所が小さなコミュニティーの中にもっと増えたらいいと思います。